川崎信用金庫理事長賞

自然を守るリーダー

栗木台小学校　６年生　福室　智文

「おぎゃー！」

ぼくは川崎市立多摩病院で生まれました。生まれた時から今日まで、ずっと川崎市で暮らしている、川崎生まれの川崎育ちです。

小学二年生の時、近所のセレサモスに野菜の苗を買いに行き、野菜を育てる授業がありました。ぼくが育てた野菜はピーマン。ぼくは野菜全部が苦手で、特にピーマンは苦いので大っ嫌いでしたが、苦い分、虫などがつかず、世話が楽かなと思ってピーマンを選びました。数ヶ月後、ぼくが頑張って育てた苗はスーパーで売られているのと違って小さく、変な形のピーマンになりました。ぼくは「いかにもまずそうなピーマンになったなぁ。」と思いました。そんなある日、とても恐ろしいことが起こりました。なんと自分が育てた野菜を家で料理して食べ、感想を書くという宿題が出たのです。ぼくは大っ嫌いなピーマンを食べなければいけないと思うと、ピーマンを選んだ自分をぶん殴りたくなりました。家に帰って、お母さんに宿題の話をすると、ピーマンの味がよくわかるからと夜ご飯のメニューはピーマンの肉炒めに決まりました。

「最悪だ・・・。」

ぼくの家の夜ご飯は夜七時です。時計の針が五時、六時と指していくにつれ、恐怖は倍増していきました。そしてとうとう時計の針が七時を指し、「ごはんできたよー」というお母さんの声が聞こえてきました。ぼくは一口だけ食べるぞと決心し食卓に向かいました。そして目をつぶり、鼻をつまんでピーマンをほんの少しだけ、思い切って口に運びました。

「え・・・？あれ・・・⁉」

想像していた苦みがない！ピーマンのうまみが広がって、肉と一緒に食べるとすごくおいしい！ぼくはびっくりしました。そして、大っ嫌いなピーマンが食べられたことがうれしくて、何回もおかわりしました。その時のお母さんの驚いた顔がずっと忘れられません。

ぼくは今まで、セレサモスは野菜だらけで地獄のような所だと思っていました。でも大嫌いなピーマンが食べられたので、ある日、お母さんの買い物についていってみようと思い、売り場に入りました。棚には野菜がずらっと並んでいましたが、その時はセレサモスの野菜一つ一つが輝いて、おいしそうに見えました。そして、いくつか野菜を買って家で食べてみたら、ピーマンみたいにおいしくて、ウソのように沢山食べられました。お母さんが、セレサモスの野菜は形がいびつだったり色が少し変だったりすることもあるけれど、新鮮で味はとても良いし、値段も安いんだよ、と教えてくれました。また地元産のものを食べることを地産地消といって、

それが自然環境を守るのに役立つことを教えてくれました。

こうしてぼくはセレサモスの野菜のおかげで、大っ嫌いなピーマンを食べられるようになったし、野菜嫌いをなおすことができました。また自分で野菜を育てるのは大変だけれど、自分で育てた野菜の味は最高だということも学びました。きっとセレサモスに出荷している地元の農家さんも、農業は大変だけれどやりがいをもって育てて、ぼくたちにおいしい野菜を届けてくれているのだと思います。

ぼくの家の周りにはたくさんの畑や田んぼがあります。ピーマンを育てた以外にも、学校の授業でサツマイモ掘り、タケノコ取り、水田での米作り等、小さい頃から近所の自然と沢山ふれ合ってきました。放課後や休日は野外活動センターや緑いっぱいの公園で友達と遊んでいます。夏休みには川崎の海の方にも遊びに行きます。こうした自然豊かな川崎がぼくは大好きです。川崎生まれで川崎育ちのぼくは「川崎そだち」のおいしい野菜や米、肉をもりもり食べて、元気に自然の中で遊び、自然に囲まれた暮らしをしています。

ぼくは、学校の授業でSDGsについて勉強しました。そして十七の目標の中に「住み続けられる街づくりを」「陸の豊かさを守ろう」「海の豊かさを守ろう」という目標があることを知りました。最近地球では豊かな自然がどんどん失われていっています。そうした中、自然と町が共存する里山があるような、豊かな自然が残っている川崎はとても素敵なまちだと思いました。十年後、二十年後に川崎で生まれるぼくのような子供が、ぼくと同じように元気に自然の中で遊べるように。おいしい「川崎そだち」の食べ物をこれからもずっと食べられるように。ぼくたちはこの川崎の自然を大切にしていかないといけないと思います。そのためには、一人一人が普段の生活でできる環境に良いことをしながら、皆が一緒に協力していかなければならないと思います。ぼくがそのリーダーになれるように、もっと川崎について勉強をしたり、自然ボランティア活動に参加したりしていきたいです。

今ある川崎の自然を守り続けるリーダーになる、それがぼくの「夢」です。